

6月最終日曜日は恒例の「おせがき」です

見樹院ニュース

O T E R A NEWS

第45号 2006年6月10日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03 (3812) 3711

FAX 03 (3815) 7951

Http://www.kenjuuin.com

E-mail: hit@juko-in.com

2006年度 (佛暦 2549年)

施餓鬼会

のごあんない

年に一度、檀信徒が一堂に会し、無縁仏など、ふだん忘れられがちな仏さまも供養し、自分自身の餓鬼(むさぼり)の心をしずめ、長寿と健康を祈る法要です。みなさんでご参詣下さい。

6月25日(日)

11時～ 受付

11時半～ 法話

12時半～ 施餓鬼法要

法要、墓参、檀信徒のつどい、会食

※折り返し、出欠(人数)、塔婆供養のご連絡をご返信下さい。お塔婆は1本3000円で承っております。

極楽浄土の

マニフェスト

いのちが尊重される平和な世界

仏教徒の究極の目標は、宇宙の真理といのちの正体を覚(さと)り、人間として完成することです。迷うことも、争うことも、むさぼること、おびえることもなく、安らかな覚りの中に生きることが理想とします。そういう生き方が実現される世界が「浄土」です。浄土にも様々

ありますが、その中でも西方の極楽浄土をめざすのが浄土宗です。

その極楽を創設し、仕切っているのは、阿弥陀如来です。阿弥陀如来の

理想が実現した極楽とは、どういう場所で、どういう願いを持ち、どうしたら到達できるかということが書かれたのが、浄土宗の中心經典である、「無量寿経」「観無量寿経」「阿弥陀経」の浄土三部經であり、それらはいわば極楽浄土のマニフェストです。そこに描かれる極楽とは、差別がなく、欠乏や貧困もなく、争いもなく、信頼と喜びのコミュニテ

イの中で、すべての人々がその人の持ち味を一杯發揮して、生きがいを持って生きていけるところです。
不安を乗り越えるために

今、私たちは大きな不安の中に生きています。異常気象に首をひねっているうち、内外で大きな災害が相次いでいます。荒んだ世相を反映する事件に、いったい日本はどうなつてしまったんだろうという声が聞かれます。年金など半ばあきらめ、「負け組」であることを受け入れさせられます。国際情勢も大きな不安要素です。

これらの状況を作り出した実態を正しく見つめることなく、漠然とした不安が増大し、それが的外れな対応を生み、むしろますます悪化させる方向へ導いていきます。すべて何でもそれが悪いというつもりはありませんが、今日の問題状況をつくった最大の原因である「資本主義」「拝金主義」、つまりカネがチカラであり、チカラが正義であるとはばかり、その環境や文化や人心を破壊してきた張本人が、今なお私たちを支配しています。大きな宣伝力によってごまかされ、大事なことを隠されています。

物事を考えるとき、最も苦しんで

いる人、弱い立場の人、被害を受ける人の立場に立つことから、本当の原因と構造を見極めることができるといのが、仏教者の基本的な姿勢です。しかし今の風潮は、弱いものをいじめめる側に付こうとする傾向が顕著です。本質的な価値判断を避け、チカラの側に身を置いて、当面の安心・安全を確保しようとしま

強者が弱者を支配する

いま、憲法を改正しようとする動きが活発になっていきます。教育基本法や入管法、そして共謀罪など、ますます強者が弱者を支配する社会制度が画策されています。もちろん個々の議論は必要ですし、憲法にいても改正すべき点がないわけではないでしょう。大切なのは、どういう社会をめざすかということです。どういふ国家、どういふ世界にしていききたいのかという理想です。

よく考えてください。本常に持続可能な社会資本は貧困で、国民の稼いだ資金を勝手に放題に浪費し、環境破壊で未来を破壊しつつ企業と政治家が太る一方で、国は莫大な累積債務を積み上げ、その企業は国内の労働者をリストラして安価な海外に拠点を移して増収を図り、挙句

の果てに国民からかき集めた貯金やほとんど外国資本にかっさらわれていく。その重責を負う輩が、飼い主であるアメリカにならって、次の公共事業は軍事とばかりに押し付ける愛国心は、本来のものとは明らかに違う。などと言う私は穿ち過ぎでは決してないと思います。

多くの人々が従順もしくは無關心なのをいいことに、強引に法改正を進めようとするのは、この国自体がよほどバイコトになっているからではないでしょうか。ならばこそ、私たちは冷静に、長い眼で見、理性と知性を發揮し、遠くに手放しかけている主導権を取り返し、真の民主主義の担い手としての自覚と責任の上に、理想に向けて今やるべきことを見極めなくてはなりません。

時代をつなぐ使命

みなさんはお墓をお参りされるとき、先祖とのつながりを感じられると思います。そしてみなさんのご先祖はきつと、自分よりその子孫が幸せになることを願っているはずなんです。そしてみなさんも同様に、子孫の幸せを願われると思います。そういう長い時間のつながりの中で考えたとき、この娑婆世界も、それ

なりに極楽の理想に向かって進歩発展してきたとは思いませんか。殺し合いと力づくが当たり前だった宗祖法然上人の時代からすれば、ずいぶん安心して暮らせる世の中になったはずなんです。身分差別が当たり前の時代もつい最近まででありました。貧困をみんなで解決しようという発想も高まってきました。それを少しずつでも変えてきたのは、強引な権力ではなく、願いを受け継いで、その時代に生きた人です。今、生きて時代を担っている私たちが、阿弥陀さまの理想を実現することができ、その願いを引き継ぐことにより、未来と良い関係でつながれるので

建築基金のご報告と御礼

「見樹院建築基金」は、二〇〇一年より、五年間で一口十五万円を目安にご協力をお願いしてまいりました。お蔭をもちまして五月末日現在、総額で一、九八九万円をご入金いただきました。御礼申し上げます。事業の進捗状況としましては、戦前の公道の位置の確定など、難しい問題も抱えているなか、まずは専門の業者さんに、一部墓地への転換の可能性も含めて調査を実施してもらっているところです。

本のご紹介

江戸川区で、様々な活動に一緒に取り組む盟友・田中優氏の新著です。

戦争って、環境問題と

関係ないと思ってた

——平和をあきらめたら、

地球に誰も生き残れない

田中 優・著

岩波ブックレット 480円＋税

<著者自身の紹介文>

平和をあきらめて、環境問題の解決だけ進めたらどうなるか：それを真剣に調べてみました。やっぱり人類は生き残れません。ではどうしたら戦争を止められるのか、戦争の原因はどこにあるのか——それを調べた結果は、エネルギーの問題と金儲けの仕組みにありました。どちらも私たちの生活と密着した問題です。ところが戦争の現実、エネルギーや金儲けのフィルターを通して見ると現実感がなくなります。このままでは戦争の悲惨さを実感したり、その悲劇に共感したりすることもできません。

では、どうしたら戦争の悲惨な現実にも共感できるのか、戦争をさせないために、どう社会を組み換えていったらいいのか。それを一緒に考えてほしいと思います。そのきっかけになる一冊のつもりで書きました。ぜひ手にとって見てほしいと思います。

あきらめずに平和を求めることは、環境問題の解決にもつながるのです。